

本時の一手間	自分の思いをまとめる紹介カードの工夫と語彙力を高める資料の工夫
--------	---------------------------------

- 1 単元名 「わたしのお気に入り」をお話ボックスにして、しょうかいしよう
 (「わたしはおねえさん」光村図書2年下、すみれちゃんシリーズ 他)
- 2 単元を貫く言語活動とその特徴
 本単元を貫く言語活動として、「お話のお気に入りを、お話ボックスでしょうかいする」ことを位置付けた。本のあらすじが分かるカードを周りに貼ったお話ボックスには、自分の経験と結び付けて選んだお気に入りとしてすすめる場面とその理由のわかる紹介カード、登場人物の人形や絵を入れていく。児童が自分が選んだ本のお話ボックスを作り、紙芝居やペープサート等のいろいろな方法で、登場人物の行動を中心に想像を広げながら1年生に紹介するという言語活動であり、紹介することによって作品に対する思いを深め、自らの読書生活を豊かにするとともに、紹介する相手と本を読みたい気持ちを共有して読書の輪を広げていくことができるという特徴を持つ。このことで、「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」(読むことオ)を実現できると考えた。
- 3 単元について
 (1) 児童観

(平成*年*月*日 *年*組 *名)

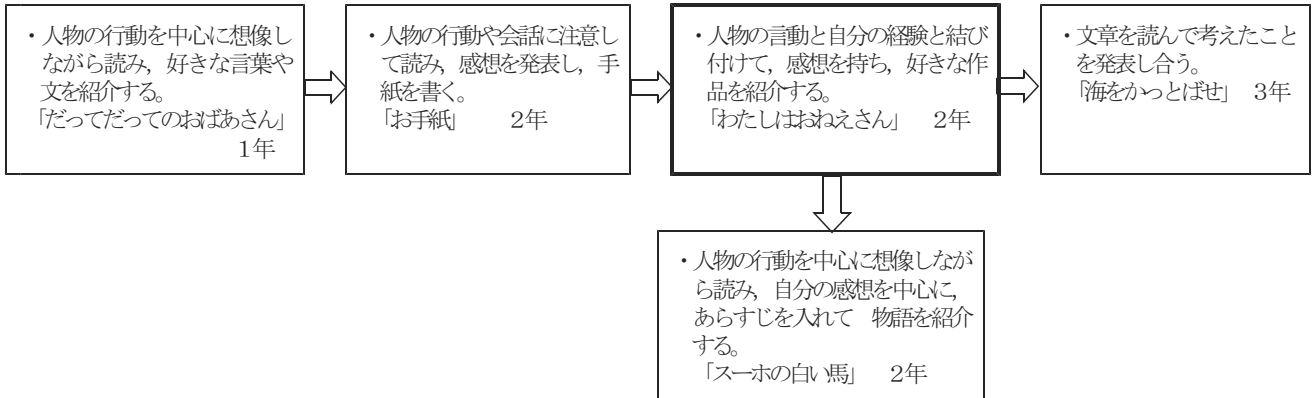
設 問	正答人数	誤答例
1 「お手紙」より (1) 最後の場面のがまくんの気持ちが分かりますか。 (2) 受け取った人がうれしい気持ちになる手紙を書けましたか。 (ほめる言葉が入っている。)	*名 *名	・ 幸せな気持ちをうれしい気持ちと答えている。 ・ 無答 ・ ほめる言葉が入っていない。
2 「読書日記」から (1) 好きな場面が言えますか。 (2) 好きな理由が言えますか。	*名 *名	・ 無答 ・ 登場人物の言動を根拠としていない。 ・ 理由を表す言い方になっていない。
(3) 自分の経験と比べて書いていますか。	*名	・ 無答 ・ 自分の経験にはふれていない。 ・ 無答
3 自分は、お兄さん・お姉さんだなぁと感じたことがありますか。	ある *名 ほとんどない *名 無答 *名	
4 本を何冊ぐらい読みましたか。	50冊以上 *名 1冊 *名	

児童は、前単元の「お手紙」において、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、感想を発表することを学習している。そこでは、登場人物や先生に手紙を書くという言語活動を展開してきた。約90%の児童が、登場人物に自分を同化させて気持ちを読みとることはできてきているが、約40%の児童は、自分と比べて読んだり、登場人物に何かを言ってあげたりすることには抵抗がある。また、読んだ本の好きな場面を挙げることはできるが、約43%の児童は、登場人物の言動と結び付けて、理由を述べることができていない。さらに、約80%の児童が、語彙の少なさから、自分の経験と比べて、思ったことや感じたことを表現することを苦手としている。そこで、登場人物の言葉や行動と自分の経験とを結び付けて、思いや考えを感想としてまとめられる力を付けたいと考える。

また、本単元の目標である「登場人物の言動と自分の経験とを結び付けて比べる」に関連して、自分がお兄さん・お姉さんだと感じたことがない児童が半数いる。このことから、すみれちゃんが立派なお姉さんになりたいという心情を理解することが難しいと考えられる。そこで、一年生とのふれあいの機会を設けて、年下の者を思いやる疑似体験をさせておき、感想がもてるようにしていきたい。

さらに、読書については、好んで親しんではいるが、絵本や娯楽色の強い本を好む傾向にある。同年代の主人公を扱った本を並行読書していくことによって、主人公と自分とを比べる読書体験を重ねながら、お気に入りの場面が紹介できる力を高めていきたい。

【「身に付けさせたい力」の系統図】



(2) 教材観

この教材の主人公「すみれちゃん」は、児童と同じ2年生である。等身大の主人公であるため、児童が同化しやすく、言動に共感し、想像を広げながら、楽しく読み進めていくことができると思われる。成長の実感にあふれた作品であり、妹の落書きによっておきた心の葛藤を乗り越え、お姉さんらしく成長する物語である。自分より幼い者、弱い立場にある者を理解し、理不尽な対応にも余裕を持って接せられる心の成長を、自分に引き寄せて読み取ることができると思う。親近感を持ってすみれちゃんの行動や心情を読み取りながら、自分の経験と重ね合わせ、「わたしなら・・・」と自分と比べた感想を持つことができる教材である。本教材によって、「主人公の言動と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えを感想としてまとめる力」を身に付けることができると思う。さらに、気に入った場面について感想をまとめ、交流し合う活動を仕組むことによって、互いの思いを分かち合ったり、感じ方を認め合ったりして、読みの世界を広げることにも適した教材である。

また、並行読書の対象となるすみれちゃんシリーズや作者石井睦美氏の作品、同年代の主人公が登場する他の読み物も紹介活動のしやすい図書である。これらの教材を使い、本の紹介活動を行うことで、「文章の内容と自分の経験と結び付けて思いや考えをまとめ、発表し合う力」を確実に身に付けられるようにしていきたい。

(3) 指導観

本単元では、「自分が読んだ本や経験したことと、文章の内容とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う」力を育成していきたい。その能力を育てるために、『わたしのお気に入り』をお話ボックスにして、しょうかいしよう」という言語活動を設定した。主人公の言動をあらすじカードにまとめ、お話ボックスの周囲に貼る。その中で、気に入った場面の様子を人形にして、ボックスに入れる。さらに、気に入った場面の紹介と選んだ理由を紹介カードにまとめて、お話ボックスを作り上げる。そして、友だちと交流し、互いの思いを分かち合ったり、感じ方を認め合ったりして、読みの世界を広げていく活動である。

第一次では、教師の作ったお話ボックスを紹介することによって、『わたしのお気に入り』をお話ボックスにして、しょうかいしよう」というゴールの見通しを持たせ、目的意識と1年生に紹介するという相手意識をしっかりと持たせたい。

第二次では、落書き事件を中心としたすみれちゃんの言動をあらすじカードにまとめる。そして、自分と主人公との似ているところ、違うところを比べながら読み、お話のお気に入りのところを紹介カードにまとめていく。その後、グループで紹介し合い、感想を交流する。紹介カードづくりにあたっては、お気に入りの場面について選んだ理由や感想をすみれちゃんの言葉や行動にもとづいて書いたり、自分の経験と結び付けて書いたりできるようにワークシートを工夫する。経験と結び付けた文章の書き方も例示する。また、すみれちゃんの心情に共感しやすくするため、事前に1年生との交流を仕組んだり、写真によって想起させたりしておく。さらに、単元の始まりと共に、すみれちゃんシリーズや作者石井睦美氏の作品、同年代の主人公が登場する他の読み物を対象に並行読書をさせていく。

第三次では、並行読書をしてきた中で、自分が選んだ本について、好きな場面や選んだ理由、生活経験や読書経験と結び付けて思ったことをカードに書いていく。その際、根拠となる主人公の言動には、本に付箋紙を入れていくという活動を助言したい。また、語彙を広げる工夫として、子どもたちから出た光る言葉を掲示したり、使っていきたい感想の言葉をパウチして持たせたりして活用を促すなど、語彙力を高めていきたい。なお、並行読書用の本は、同じ物を2～3冊用意し、作成途中のグループ交流も共通内容でできるように考えた。そして、1年生に紹介するという相手意識・目的意識を持たせ、よりよいお話ボックスを作っていけるよう意欲の継続化を図りたい。

4 単元の指導目標

- (1) 登場人物に自分の経験や気持ちを重ねながら、興味を持って読もうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 登場人物の言動と自分の経験とを結び付けて、感想を持ち、好きな作品を紹介することができる。
(読むこと)
- (3) 文の中における主語と述語との関係に注意して、読んだり書いたりすることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 自分の選んだ本に対する思いが伝わるように、本の楽しさを共有しながら紹介しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語の中の気に入ったところについて、自分の経験と結び付けて紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文の中における主語と述語との関係に注意して、読んだり書いたりしている。

6 単元の指導計画 (11時間扱い)

次	時	主な学習活動	主な評価
一	1	①教師のお話ボックスによる本の紹介を聞き、『わたしのお気に入り』をお話ボックスにして、しょうかいしようという学習課題を決め、学習計画を立て、単元の見通しを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> 目的意識：お話ボックスにして、しょうかいしよう 相手意識：1年生に紹介する。 課題意識：並行読書を行い、お気に入りをを見つける。(並行読書と1年生との交流を進めていく) 	<ul style="list-style-type: none"> お話を紹介することに関心を持ち、本単元の見通しを持って、教材文を読もうとしている。(関心・意欲・態度)
二	5	①アニメーションを使い、「わたしはおねえさん」の登場人物やあらすじを押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> すみれちゃん かりんちゃん コスモス ②あらすじカードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> はじめ：「おねえさん」としてのしあわせ 中：落書き事件 おわり：心の成長 ③「わたしはおねえさん」を読み、気に入ったところに付箋を入れ、感想カードを書き、何度も読む。 <ul style="list-style-type: none"> 心に残ったことばや行動 自分の経験と比べたこと ④感想カードをまとめ、紹介カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> お気に入りの場面 わけ おすすめ文 ⑤グループでお話ボックスを紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 主人公の人柄をつかみ、あらすじを捉えている。(読む能力) はじめ・中・おわりの構成で、すみれちゃんの行動や出来事をあらすじカードに書いている。(読む能力) すみれちゃんの言動について、自分の経験と比べながら読み、感想を書いている。(読む能力) 主語と述語との関係に注意して書いている。(言語についての知識・理解・技能) 気に入った場面を、自分の経験と重ねながら、紹介カードに書いている。(読む能力) 友達の感想を聞いて、自分の経験と結び付けて思ったことを発表し合っている。(読む能力)
三	5	①紹介する本を選び、あらすじカードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> はじめ：主人公の紹介 中：出来事 おわり：解決 の構成でワークシートを書く。 ②気に入ったところに付箋を入れ、感想カードを書き、何度も読む。 <ul style="list-style-type: none"> 心に残ったことばや行動 自分の経験と比べたこと ③感想カードをまとめ、紹介カードを書く。 <ul style="list-style-type: none"> お気に入りの場面 わけ おすすめ文 (本時) ④紹介の練習をし、お話ボックスを1年生に紹介する。 ⑤単元全体を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 紹介された本を読み、学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> はじめ・中・おわりの構成で、選んだ本の登場人物の行動や出来事をあらすじカードに書いている。(読む能力) 登場人物の言動について、自分の経験と比べながら読み、感想を書いている。(読む能力) 主語と述語との関係に注意して書いている。(言語についての知識・理解・技能) 物語の中の気に入ったところについて、自分の経験と結び付けて紹介している。(読む能力) 選んだ本の中の気に入ったところについて、自分の経験と結び付けて、自分の思いが伝わるように紹介している。(読む能力) 等身大の人物が描かれた物語のよさを味わい、紹介された本に興味を持って読もうとしている。(関心・意欲・態度)

7 本時の学習

(1) 目標

自分の選んだ本の紹介カードを書くことを通して、お気に入りの場面を選び、自分の経験と結び付けて考えや思いをまとめることができる。

(2) 準備・資料

学習計画表と振り返りカード、実物投影機、ワークシート、お話ボックス、感想カード、紹介カード付箋、例文の掲示物、使ってみたい言葉のリスト(掲示用と個人用)、ファイル、並行読書用図書、ブックリスト、ピカピカ作文のこつチェックシート、エプロンシアター、パネル・ブラックシアター

人形ステージ

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点（・）と評価（◇）
<p>1 本時の学習課題を確認する。 ・教師のお気に入り紹介を聞く。 お話ボックスに入れるわたしのお気に入り紹介カードを書こう。 ・「わたしはおねえさん」の紹介カードの書き方を確かめる。</p> <p>2 わたしのお気に入り紹介カードを書く。 (1) 前時に書いた感想カードの中から、紹介したい1枚を選ぶ。 (2) 選んだ感想カードをもとに、お気に入りの場面・気に入ったわけやおすすめ文をカードの文型に沿って書いていく。自分の経験と比べて、似ているところや違うところを入れるようにする。 ・すぐにやらないところがわたしとにているな。 ・ぼくとちがって、しげちゃんは強いなあ。 ・ぼくだったら、きっといやになってしまう。</p> <p>(3) 書き終わったら、「ピカピカ作文のこつ」チェックシートを見て、①から⑩のチェックポイントに従って、字の間違い等を自分で確かめる。</p> <p>3 同じ紹介方法を選んだ友達とのグループに分かれて、紹介カードを発表し合い、交流する。 (1) お話ボックスの中の人形の提示場所に移動する。 ・パネルシアターコーナー ・ペープサートコーナー ・エプロンシアターコーナー (2) 一人ずつ紹介カードを発表する。 (3) 交流のチェックポイントに従って、聞いた感想を発表し合い、交流する。 ・気に入った場面がよく分かりました。 ・自分と比べて書いてありました。 ・わたしも読んでみたくなりました。</p> <p>4 出来上がったわたしのお気に入り紹介カードを全体の場で発表する。 (例) わたしは、「すみれちゃん」という本を読みました。 お気に入りの所は、「つまりわたしはエレガント」と歌うところです。 なぜかという、名前にぜひぼうしていたのに、かわったところがおかしかったからです。わたしも同じようにちがう名前がいいと思ったことがありますが、大切な思いがこめられていると知って、うれしくなりました。 この本を読むと、心があたたまります。ぜひ読んでみてください。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。 ・自分が言われたことや友だちの紹介を聞いて、気が付いたことを振り返りカードにまとめる。 ・書いたことを発表する。</p>	<p>指導上の留意点（・）と評価（◇）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のお話ボックスを見せ、紹介カードを提示することで、本時の学習への興味を喚起し、見通しが持てるようにする。 ・1年生に本の紹介をするという活動の目的意識や相手意識を確認する。 ・第二次で学習した文型の掲示物をもとに、書き方を確かめるようにする。 ・本はブックリストのお気に入り度の高いものから選んでおく。お気に入りの場面を見つければ、登場人物の行動・場面の様子・言葉・自分と比べてという4観点を示しておくようにする。 ・登場人物の行動について生活体験や読書経験と結び付けて考えさせるために、自分の好きな場面について理由を付けたり、思ったことを入れたりして紹介する活動にしていきたい。 ・交流の時間も考えて15分程度で書けるようにしたい。また、気に入ったわけの部分は、前時のカードをもとにするので、80字程度の文が書けるようにする。 ・書く内容とはじめ・中・おわりの組み立てで書けるよう工夫したワークシートを用意する。 ・使ってみたい言葉のリストの掲示物や個人用のリストから、おすすめのことが使えるよう助言する。 ・ボックスや人形等は図工との合科で、作っておき、文章を書くことに集中できるようにする。 ・つまづいている児童には、自分の経験と比べた書き方の例示を用意しておく。また、教師との会話の中で書くことが見つけられるようにする。 ◇選んだ本のお気に入りの場面について、理由や感想を入れて、紹介文を書いている。 ・推敲のポイントを示したシートを参考に、字の間違いや抜け字等は自分で見直すようにする。 ・並行読書用の本は、同じ本を2～3冊用意するので、あらすじを書く時には、共通の内容で交流するが、紹介は異なる本の友達と行うようにする。 ・交流の観点として、 お気に入りのところや選んだわけが分かったか。 自分と同じ考えや違う考えに気付いたか。 その本を読んでみたくなったか。 ということを中心にして、読み方や人形の動かし方にはふれないようにする。 ・カードは実物投影機で映し出し、聞いている人に視覚的に分かりやすく、発表できるようにする。 ・場面の様子が分かりやすいように人形も提示する。 ・本時のねらいである選んだ理由や自分の体験と比較した感想の部分を賞賛する。 ・振り返りカードに紹介文の書き方でわかったことや交流を通して気付いたこと等を書きこむようにする。 ・次時では、1年生にお話ボックスを紹介することを確認する。